

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院 事業名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 スマホの向こう側 ～インターネット世界に SOS を出す子供の理解と対応～ 研修等名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 スマホの向こう側 ～インターネット世界に SOS を出す子供の理解と対応～ 開催日時：令和 6 年 7 月 6 日 9 時 30 分～11 時 30 分 開催場所：オンライン 熊本大学（熊本県熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 番 1 号） 参加人数（総数）と参加者の属性：申込数 287 人 当日参加者 201 人 保護者 46 人(23%)、学校関係者 131 人（65%）、その他 24 人(12%)
--	--

目的：

1 人 1 台のタブレットが整備された GIGA スクール構想や、スマートフォン等の技術及び保持率の向上は、Society5.0 時代を生きる子どもたちの可能性を広げ、「新しい学び」の実現を後押ししている。取組が着実に進む一方で、社会問題化する SNS トラブルやネット依存など、タブレットやスマートフォンに潜む闇から子どもを守るという課題も見えてきた。ただ、学校においても、家庭においても、どんな対応をすればいいのか、何を準備すればいいのかなど、学校現場も保護者もそれぞれに戸惑いを感じている現状がある。いろんな心配、戸惑いを、学校、保護者、そして子どもたちと一緒に考え、一緒に乗り越え、さらなる期待に変えていきたい。そのために、みんなで一緒に考えるきっかけとなることを目指して、保護者・教職員向けの本セミナーを開催した。

内容：

- 1 開会・主催者挨拶（熊本大学教授 藤中隆久）・趣旨説明（熊本大学准教授 金井義明）
- 2 講演「スマホの向こう側～時代を創る力を育む生成 AI 時代の子育てと学校教育～」
田中慎一郎氏（熊本市立出水南中学校 校長）
- 3 対談「これからの時代を生き抜く賢い担い手を育むための学校・家庭の連携」
田中慎一郎氏（熊本市立出水南中学校 校長）
前田康裕氏（熊本大学特任教授）
- 4 閉式

田中氏の講演では、AI 時代の今こそ、人が人の中で生きて互いの幸せを感じる世の中になるように、AI 技術を使って、自らの手で時代を創り出すことを目指すことが大切である。情報端末を日常的に使用する現状では、危機は起こる前提で、起こった危機にどう対応するかを学ばせる必要がある。児童生徒も、危険性を教えてほしいのではなく、対処方法を知りたい。それを、いろいろな人の力を借りながら、一緒に考え、一緒に解決していくことを重視したい。だからこそ、児童生徒には、なりたい自分になるために、目の前の機器とシステムとどう向き合うかを、児童生徒自身に気付かせることが大切である。他にも、具体的な例を挙げながら、どう対応すればよいかを具体的に話された。対談では、学校、保護者の意見を交流し、これからの連携について具体化し、互いが責任を押し付け合うのではなく、学校と保護者が同じ思いのもと、善き社会を創る市民として必要不可欠な資質や能力の育成する重要性を確認した。

成果：

セミナー後のアンケート（122 人回答） とても役に立った（95 人・79%） 役に立った（24 人・20%）
あまり役に立たなかった（2 人・1%） 役に立たなかった（1 人・0%）
・デジタル依存をむやみにダメ！と思っていたのですが、どう向き合っていくかを考えるきっかけになりました。対談でも自己効力感のお話が響きました。社会を変える力があるって思わせるカリキュラム作りをしたいです。（教職員）
・若者の生き方に比べて、トライアンドエラーする自分は泥臭い？ダメなのかな？と思うときがあります。でも、いろんな場面で試行錯誤してやっていくことが、私なりの社会の関わり方だと感じました。（保護者）
・心に残ったのはネットの問題は解決する力をつけるチャンスということです。リスクマネジメントではなく、クライシスマネジメントの視点というのは、学校現場でも大事にしていきたいと思いました。（教職員）
・みんなが社会の一員だと認識できる、「自己効力感」を育てていくことが大切であると思いました。その中で、上手

く生成 AI を道具として使いこなしていくことが重要だと気付きました。（保護者）

- ・学校ではまだまだダメ絶対！がよしとされ、それってみんなが苦しいな～って思います。子どもの幸せを願うからこそ今日のようなお話をたくさんの方に聞いてほしいと思いました。（保護者）
- ・AI とどう向き合うか等、とても興味深い内容でした。また、自己効力感を育むために、大人と子どもがどのように取り組んでいくかも深く考えさせられました。（保護者）
- ・ゲームやスマホの長時間利用は我が家でも問題ですが、目の前の事情のみにとらわれず、子どもと一緒に問題解決する対話の時間をもちたいと思いました。子どもと一緒に五感で体験する大切さを感じました。（保護者）
- ・デジタルが浸透した時代であるからこそ、デジタルから得たことを自分自身で適切に判断できる力が求められている」というお話が心に残りました。（保護者）

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

今回講演をいただいた田中氏は、長年熊本日日新聞社で「スマホの向こう側」という連載をされている。教職の経験に基づく連載は好評であり、多くの人から共感を得ている。さらに、今年度より校長として学校経営に携わられている。校長の立場から、子どもたちにスマートフォンやタブレットとどのように向き合わせるのか情報提供をいただいた。一方的な発信に終わらず、参加者の意見や質問に対して、対談という形で対応を行った。このようにして、より深い理解を促し、自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ね、価値観を問い直し、具体的な実践を促すことを目指した。このことは、NITS からの提案（第一次）と重なる。わかりやすさ、取り組みやすさを重視し、今後の具体的実践につながるセミナーの効果は、とても大きいと考える。「研修を通じて、参加者にどのような気付きや変化があるか」という参加者の具体的な学びの姿を大切にされた 2 人の講師により、本セミナーが参加者のニーズに応え、セミナー後の具体的な行動を促すことにつながったと考える。ただし、今回のセミナーで目的を解決できたわけではない。このセミナーはこれまで 4 回開催しており、今後も継続していきたい。

アイデアや工夫したこと：



チャットで質問やご意見をお聞かせください



対談の中でできるだけ質問に答えたいいただきます。すべての質問に答えられないことをご了承ください。

○講師の選定において、最新の情報を提供するとともに、分かりやすい話題提供ができる

方に依頼した。たいへん好評であった。

- 今回のセミナーは、保護者と教職員の連携を目指した。保護者にとっても分かりやすく、受け入れやすい内容になるように事前に講師と打ち合わせを行った。前半の講話のあと、講話の内容がより深く理解できるように対談形式とした。さらに、チャットで質問を集め、答えることを重視した。親しみやすい話し方、分かりやすいシートや具体的な例、丁寧に質問に応えることにより、アンケートの結果もとてもよいものであった。
- 多くの方が参加しやすいように、オンラインのセミナーとした。よい映像、よい音響で配信できるよ

うに、大学の技術職員に協力いただいた。できたばかりのオンラインを配信するスタジオを使用し、恵まれた環境の中で配信することができた。

- 広報については、チラシを熊本県内の小中学校及び、PTA に配布した。さらに、フェイスブックやメール、地元新聞等でお知らせした。SNS を活用したことにより、県外からの参加も多かった。
- 保護者向けセミナーは、4 度目の開催となった。夏休み前の開催を継続し、複数回目の参加者も多い。これまで参加していただいた方に向けて、メールでお知らせしたことも効果があった。

保護者
教職員向けセミナー「スマホの向こう側」
～時代を創る力を育む生成 AI 時代の子育てと学校教育～
2024.7.6(土) Zoom による
9:30～11:30 オンラインセミナー

講演：田中慎一郎氏

対談：前田康裕氏

公立小中学校教諭、熊本市教育センター指導主事、熊本市立小学校教諭、熊本大学准教授等を経て、現在熊本大学特任教授。著書に「まんがで知るデジタルの学び」シリーズ（さくら社）など。



公立中学校教諭、熊本市教育委員会総合支援課指導主事、公立中学校教諭を経て、今年度より熊本市立出水南中学校校長。校長として子供を中心とした学校経営に取り組み、すべての子供が活躍できる学校づくりを目指す。年間約 70 本の講演、ラジオ出演のほか、熊本日日新聞では「スマホの向こう側」を毎月第 4 木曜日に連載中。